

西中の風



令和7年度
第17号
R7.8.9

長崎市立西浦上中学校
校長 原田 憲和

平和集会

本日、平和集会を行いました。
平和集会の中で、「永遠の会」の大塚様と杉野様のお二人に『被爆体験記』を朗読していただきました。その後、平和宣言に続き、全校生徒で黙祷を行いました。以下、本校の平和宣言です。



戦後八十年の節目の年、これはまさに美しい長崎の地に原子爆弾が落ちて八十年の経過を意味します。私たちが過ごす西浦上中学校周辺は八十年前、すべてが破壊され、多くの尊い命が失われました。かろうじて生き残った人たちは、平和の種を蒔き、そして平和の大切さを継承してきました。あの一瞬の出来事を忘れず、戦争のない、普通の日常が途絶えないことを信じて、学び、発信してきました。

今、被爆者の高齢化が進み、語り継いでいける人が年々少なくなっています。平和が今後も永遠に続くためにも、私たちは過去から学び、未来につないでいかなければなりません。

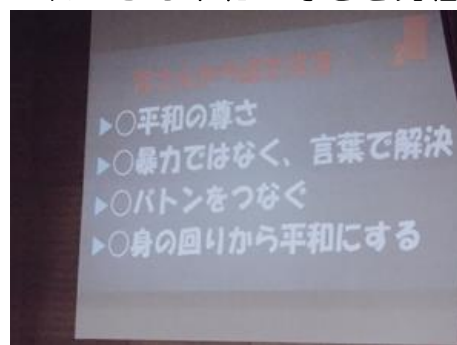
私たちは最後の被爆地に生きることの意義を理解し、これからも平和の尊さを発信し続けます。

- 一、私たちは 戦争の悲惨さを伝え続けます。
- 一、私たちは 平和のバトンを未来につなぎます。
- 一、私たちは 暴力ではなく、言葉で解決します。
- 一、私たちは 自他の命と心を大切にします。
- 一、私たちは 身の回りの平和から考えます。
- 一、私たちは 仲間と互いに手を取り、助け合います。

令和7年8月9日 西浦上中学校 生徒一同

平和実行委員のメンバーの3名が、本日の平和祈念式典に参加しています。また、先日の原爆殉難教え子と教師の慰霊式に11名が参加しました。

先日の永井徳三郎様の「家族証言講話」で学んだ『如己愛人』を心に留めて、「平和の輪」を広げていきましょう。



原爆殉難教え子と教師の慰霊式

8月1日に長崎市平和会館で第44回原爆殉難教え子と教師の慰霊式が行われました。全参列者(約400名)による黙祷の後に、市長様、県教育長様、児童代表、そして、本校の第1学年主任のG先生が市内の教師を代表して、「慰霊のことば」を述べられました。・「あそこで炸裂したんぞ。」恩師の社会科の先生より、中学時代のG先生へ「あの日」のことを伝えてくださったこと。・祖母が浦上川沿いにあった兵器工場で作業中に被爆したこと。・母親が疎開先の佐賀から、祖母の安否を確認するために叔父と投下数日後の原始野に入ったこと。・これまで、自身の教師生活の中で、祖母や母親のことを生徒たちへ伝えてきたこと。・原爆投下から80年目を迎え、私たちが伝えられたことを伝えていく時代へと移り変わろうとしていること。・長崎に育ち、被爆者の方々から伝えられてきた私たちこそ、世界の人々に、次の世代に、伝えられる。豊かな感受性と想像力を大切にしながら、つなげていくこと。

最後に、全参列者(G先生、本校生徒11名と引率のH先生、校長を含む)による献花を行いました。参列者一人一人の心にしみるスピーチを行ったG先生、引率のH先生、平和実行委員の生徒の皆さん、ありがとうございました。